

クリークの泥を肥料に

「ごみくい」体験若者ら汗

佐賀市

クリークにたまった泥をすくい、肥料として活用する伝統農法「ごみくい」が23日、佐賀市北川副町のクリークであった。地元住民や城南中生徒、佐賀大生ら約130人が、約12トンの泥をバケツリレーや機械を使ってくみ上げた。

佐賀市北川副町



胴長を着た中学生や大学生たちがクリークに降り、バケツで泥をすくった。足を取られながらも、重くなつたバケツを手渡しし、汗を流した。

城南中・佐賀大生らで12トン



胸まで泥に漬かった城南中3年の山中将大君(15)は「腰が痛くなったけど、みんなで取り組めて楽しかった」と笑顔。佐賀大学院農学研究科2年の副島沙也香さん(24)は「大学生が農家や地域の人と手を組み参加できるのがうれしい。ごみくいがもっと広まったら」と話した。

「ごみくい」は、クリークの農業用水を確保するため、水路から泥をすくい上げ、泥を肥料として利用する伝統農法。すくった泥は来年3月まで乾燥させて砕いた後、北川副校区内の田んぼの土と混ぜる予定。化学肥料などの普及で現在は廃れており、復活させようと「元氣・勇気・活気の会」が毎年企画、今回は東京海上日動火災保険が協賛した。

(大塚堅志)

バケツリレーの要領で、泥をくみ上げる「ごみくい」の参加者たち
佐賀市北川副町のクリーク

佐賀中部

佐賀市小城市 多久市